

ひとりひとりひかる

きぼう

2002 10/1
第30号

発行:かしの木の会/かしの木の里内 尾西市富田字砂原 2147:kasisato@f7.dion.ne.jp
・ 榎の木園:kasiem@k3.dion.ne.jp ・ 榎の木作業所:kasisyo@k2.dion.ne.jp
かしの木 ホームページ <http://www.h3.dion.ne.jp/~kst/>



小学生のお掃除ボランティア活動。市内三条小学校4年生の4クラスがかしの木の里へお掃除ボランティア体験に取り組みました。6月巡回バスで尾西グリーンプラザ前まで、そこから徒歩5分。児童父兄も数名参加。

写真は食堂をほうきで掃き、雑巾がけしている様子。中庭のタイルはたわしパワーで見違える程きれいに！里の入所利用者の皆さんとは休憩時に一緒にお茶を飲んだ。交流のスタートとなった。

【30号きぼうの目次】

表紙 写真 目次	P. 1
かしの木の会・学習会について	P. 2~3
地域・福祉コーナー①/にこにこ会	P. 4
地域・福祉コーナー②/ピュアハウス	P. 5
地域福祉情報コーナー①/グループホーム②	P. 6~7
地域福祉情報コーナー②/社会福祉法②	P. 8
地域福祉情報コーナー③/フェスティバルびさい	P. 9
かしの木の会コーナー①/かしの木フェスティバル	P. 10
かしの木の会コーナー②/交友会・盆踊り	P. 11
施設コーナー[里]/夏休み特別療育	P. 12~13
地域ボランティアコーナー/三条小学校	P. 14
福祉情報コーナー/在学/在宅/実習生の集い	P. 15
文芸コーナー/音楽・映画	P. 16
お知らせコーナー	P. 17~18

かしの木の会 学習会 「これからの障害福祉のしくみ」



講師 神田 啓子氏

障害を抱える子の親にとって、子どもの将来をどう見据えたら良いのか—制度が大きく変わろうとしている今「これからの障害福祉のしくみ」と題して先日の7月18日愛知県心身障害者コロニー療育部事業課の保健師 神田啓子氏においでいただき学習会を行いました。

初めに東浦ののぞみの家のビデオを見せていただきました。障害の重い5人の方が施設の中での暮らしから、町の中での生活に挑戦する内容でした。障害があっても自分の人生は自分で選びたい、ふつうの暮らしがしたいという5人の自己実現に向かった挑戦。この中には、身の回りのことはだいたい自分でできる方から、食事も排泄も一人ではできないコミュニケーションもトーキングエイドでという方あり、又移動は電動車イス…とハンディはさまざま。

5人の話し合いから始まり、実現に向けて職員宿舎で職員さんボランティアさんと準備段階を経て、町の中へ少しずつ出ていくものでした。

「施設にいたら安心」ではなく、「施設にいたら自分が半分寝ている」町の中での1つ1つの活動が自律に向けての活動ということで、ある方はデパートへ買物に出かけたり、又ある方は中学校へ福祉実践教室の講

師として、ハンディがあってもふつうの人がふつうにしているように皆と同じように地域で暮らしたいというものでした。

神田氏の講演では「今なぜ地域福祉と言われているのか」というお話からはじまりました。以下はお話を抜粋したものです。

『昭和30～40年にかけて、一つのところに障害者を集めたコロニーが全国47都道府県につくられました。はじめはユートピアとして良い発想だと思われていました。

しかし、何十年かたつうちに入所している人に退行現象が出てきました。閉じこもりになってしまったり、そのストレスからいろいろな症状が出てきました。

これが(施設病)というものです。どうしてこうなってしまったのかいろいろ考えると、施設では一日の流れが決まっています。

職員さんは日勤あり夜勤ありと絶えず人がかわり、本人と固定した関係がとれません。また無償の愛に欠けてしまうのです。

こういったことから、ノーマライゼーションといって普通に暮らそうよ楽しく過ごそうよと安心して体も心も健康で…というのは誰でも同じですよ。

こういった発想から地域福祉への支援のしくみが見直されてきたのです。



基礎的なしくみは介護保険制度と同じようになるということ。作業所等が行っている日中活動の場としての①デイサービス、入所施設が取り組んでいる②ショートステイ、レスパイトそして家事援助や身体介護としての③ホームヘルプの3本柱です。

又、今までは行政措置であった「措置制度」から障害者自らがサービスを選択して契約するという「利用契約制度」に変わります。

そして身近なところでいうことで市町村が実施主体となります。エリアは障害保健福祉圏域ということで、30万人の市・福祉圏域ごとになり、尾張西部が1つのまとまりとなります。

そこでこれからは皆さんの動きがとても大切になってきます。私はどんな暮らしがしたいかをはっきり出すことが必要です。そしてそれを誰かに相談（市町村自治体）し、上手に制度を利用するという自己申請型となります。

又利用者とサービスをつなぐものとして、市町村の相談業務と併せて、コーディネーターとして相談にのる障害児(者)地域療育等支援事業（知的障害者対象）や市町村障害者生活支援事業（身体障害者対象）が必要になってきます。利用者を護るしくみとしては成年後見人制度や地域福祉権利擁護事業、苦情解決事業があります。

最後に、障害者の方の住まいの場の確保としてグループホームがぜひ必要になってきます。またこれには希望があればホームヘルパーさんも必要でしょう。

今、入所更生施設の機能の見直しが言われています。これまでの入所更生施設には終生型と生活の調整型があります。これからの地域福祉を考えると本人が保護者から離れて自立訓練の場を提供してもらって生活の調整型のほうが望ましいでしょう』

いろいろ盛りだくさんの内容で、中味の濃いお話ばかりでした。障害福祉が大きく変わる今、障害者本人がどういう生き方をしたいか、親としてどう生きていってほしいのかをはっきりと言えることが必要だと思いました。そういう意味で本日のお話はとても参考になりました。

ひかりの里のぞみの家の5人の挑戦の中で、Fさんが「私の夢に私はかけたい。命か生きがいどっちをとるか聞かれたら、私は生きがいをとる。命があっても生きがいがなかったら、もう死んでいるといってもいいもの。生きてるなあと思いたい。」という言葉が心に残ります。

(かしの木の会員 M・K)

地域福祉コーナー①

尾西手話サークルにこにこ会 20周年記念の集いを終えて

さる6月23日(日)尾西グリーンプラザにて、尾西手話サークルにこにこ会20周年記念の集いを開催しました。総勢250人を越す参加がありました。これを機に聴覚に障害のある方々と共に頑張っていきたいと思っておりますので皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

記念講演 千葉県よりお迎えした聴覚障害者の塩野谷富彦氏による世界81カ国を旅行された時のエピソードをお話し頂きました。



尾西市文化会館の1階で、サークル活動をしています☆

手話の「おおきなカブ」の練習風景です！うんとこしま！どっこいしょ！！まだまだカブは抜けません。



感謝状 80才を越えますますお元気な筒井さん創立以来20年間活動されてきた森さん お二人方にサークルより感謝状の贈呈を行いました。

交流会 午後からは聴覚障害者も健常者もみんな楽しく遊べました。

かしの木の里の手作りの作品を参加のお土産としてお渡ししたところ、とても喜ばれました。

かしの木の里の皆さんどうもありがとうございました。



にこにこ会 岩下 茂子

地域福祉コーナー②

ピュア・ハウスの今の活動

ピュアハウスという名で4月より活動を始めて4ヶ月が過ぎました。最初は、仕事もなく1日を何をしてどう過ごすかもわからず、親も子もとまどい、手探り状態でしたが、かしの木の会のある人の好意で、ボビンの残糸とりという仕事を紹介していただき、今では、機械も入り、1日平均1000本ぐらいはやれるようになってきました。工賃の一部を最終週の水曜日に、給料として子供達に渡し、仕事をして、お金をもらうという実感を持たせることもできてきました。6月より、月一度はお楽しみ会をするようにも

しています。収益活動として、7月から空缶、ペットボトルのリサイクルを始めました。ピュアハウスの周辺のお宅にも、ご協力のちらしを配り、地域の方々にも、少しずつピュアハウスのことをご理解してもらえてきているように思えます。これからも色々と考えて、やれることはやっていき、もちろん子供達のことを一番に考えながら、少しずつ親も離れていけるよう、頑張っていきたいと思っています。これからもピュアハウスのことを見守っていただきたいと思います。



ピュアハウスでは、午後からお手伝いいただけるボランティアさんを募集しています。興味のある方は、是非見学にきてください!! お待ちしております。

問合せ先 0586-68-1207 橋本まで☆



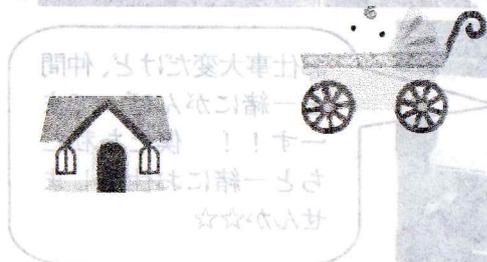
お仕事大変だけど、仲間と一緒にがんばってます!! 僕たち私たちと一緒にお仕事しませんか☆☆

地域福祉情報コーナー① グループホームについて その2

～「ひかりのさと のぞみの家 から教えられること～

私が、身体障害者療護施設「ひかりのさと のぞみの家」と出会ったのは、数年前。まだかしの木の里ができる前、その理念や取り組み内容を考える為に見学をさせていただいた時。その頃の施設長石井鉄一氏から「のぞみの家」「まどか」「ひかりの里ファーム」を案内されて、その利用者の人々（住人さん）とも触れ合うことができました。ほんのわずかな時間でしたが貴重な体験をさせていただきました。皆さんもかしの木の会（その当時はこの子らの幸せを考える親の会）の講演会が数年前にあり、皿井寿子氏に施設作りについていろいろ教えていただいたことがありました。思い出されましたか？あの知多郡東浦町の施設です。

そのときに石井鉄一氏から教えていただいたことがあります。1つは「働く」という意味。なにも生産活動だけが「働く」ではない。大人になり社会に出れば「働く大人」として活動しなければならぬ。しかし生産活動がしたくても難しい人がいる。援助してもらわなければ、食事も摂れない人もいる。もちろん移動も……。ご本人が、食事の時に少しスプーンに手を添えること、移動の時に少し腰を浮かすこと、援助者を楽にする……。はたをらくにする……。「はたらく」と。



もう1つは、「生きがい」。どんなハンディを持っている人も、自分の将来の夢や希望をもって生活をしている。そのことがとても大切で、それを少しでも叶えられるように援助することが援助者としての使命でもある。「生きがい」と「命」とどちらを選ぶと問われたら、すかさず「生きがい」という利用者もいる。「命があっても生きがいがないければ、生きていてつまらないから……」

やはりこの施設でも「施設の外に出よう」という動きが利用者一人一人にある。買い物の外出もコンサートに行くことも、そして生活そのものも……。同行者や援助者も自分でボランティアを探し、その援助を頼んで行っています。グループホームもこの施設のすぐ近くに、旧社員寮があり、そこを利用しての生活訓練を行っているとのことでした。肢体に不自由があり、車椅子での移動、食事やトイレもすべて介助を必要とする人が、自らの力・夢・希望をつかむ為に、その生活を望んでいるのだそうです……。ここまでは数年前の石井鉄一氏の話。

つい最近、この利用者のホーム利用の姿を垣間見ることができました。そうです、コロニー療育部看護師の神田啓子氏の講演会のビデオの中です。ご覧になったみなさんは、きっと驚きと同時に感動されたと思います。自分の夢や生きがいを追っかける逞しさがそこにありました。その夢や生きがいを支えようとする援助者の姿がそこにありました。

先に述べた「ひかりのさと のぞみの家」の見学の折りに、一人の利用者と話すことができました。やはり、グループホームを利用して暮らしをしたいという生きがいを持った人でした。そのかたは、名古屋のアパートまで行って自立体験を試みえる方でした。名前は、鄭秀永さんといい、在日韓国人の方、この方が群萌という出版社から本を出してみえます。題名は「鄭秀永の挑戦」という本です。そこから抜粋した文章を載せて、グループホームについて その2を終えたいと思います。



私は昨年(2001年)の10月から自立体験をはじめました。それまで私は施設に18年住んでいました。周りには民家がほとんどなく、はっきりと世間とは隔離されていました。

施設での生活については、入所者に対する一部の職員の接し方がなんとも事務的で、それがたまらなく嫌でした。そのような職員の方々も、はじめは希望と理想に燃えて仕事をしていたと思います。それがいつの間にか事務的になってしまうのはなぜでしょうか。

問題は施設の体質にもあるでしょうが、社会全体にも問題があると思います。施設から出るということは自分の生き方を考えていく第一歩だと思います。

時間で縛られ、自分の思うようにできない生活があたりまえなのかどうか、

生を施設で暮らすことに疑問を感じました。

私はこんな施設で一生を終わらせたくない、なんとか施設から出たいという気持ちでいっぱいでしたが、その気持ちとは裏腹に、障害のことやまわりからの忠告で無理ではないかと悩んだ時期もあります。

障害者の解放運動をしている人に相談し、今の形で自立体験をはじめることができました。外からの援助がないと施設から出ようと思わなくなってしまう人が多いと思います。人から「出たいのなら自分で何でもやってから」とか、

「介助がいるくせに」と言われると、もうそれっきり何も言えないというのが現実です。

しかし、私は今、こうして自分らしい生活をつかみかけています。大変なことや辛いこともたくさんありますが、施設ですべて暮らすより絶対にいいです。自分の意思で決めたり行動したりして生活できるからです。

—抜粋— 「鄭秀永の挑戦」

著者 鄭秀永 群萌社 (施設職員 T)



地域福祉情報コーナー②

社会福祉法を考える(2) 「福祉は買うものよ！」

前回の末尾で、新しい社会福祉法の成立は、国の公的責任と歳出を減らすねらいがあったと見ました。このことをもう少し見てみますと、社会福祉法の趣旨は支援費制度の導入にあります。明確に「費」がかかっています。これも介護保険の流れで、社会福祉の市場化・商品化が位置づけられたというわけです。福祉サービス自体を金銭に換算して行くというわけですが、果たして、この考え方の導入には警戒し動揺をしております。

「福祉は買うものよ」と断言されたら皆さんはどう思われますか。

- ・ ちょっと待って、買うことができない人はどうなるの。生きていくための福祉サービスが受けられなかったら・・・。
- ・ 福祉を慈善や恩恵として、一方的にありがたいと頭を下げるよりは、購入してお金を支払う方がいいという意見もありそうです。福祉サービスの提供者と受給者が上下関係でなく対等な関係として成立していきますから。けれども購入という方法でしか対等な関係が作れないとは思えませんけど。
- ・ 福祉産業の発展が国の景気の回復につながっていくという意見についてはどうなのでしょう。障害者福祉の支援費制度も規制緩和・市場経済の活性化への社会基礎構造改革の目玉のひとつなのでしょう、聖域なき改革ですから。福祉の分野でも利潤の追求が目的になることは心配が多すぎます。最近になって老人のグループホームが増設されてきていますが、同時に拘束の実体が
- ・ 社会問題化されているとのことです。福祉より利潤追求の結果です。本人の権利侵害に陥る危険性が多く生じそうです。
- ・ 福祉サービスの人的支援はいつくしみやさしさやいたわりにオブラートされている相互交流にこそその意味があると思います。これらさえも金銭換算していきましようと言われてはたまりません。「福祉は買うものよ」という連想で「愛は買うものよ」と言われれば「とんでもない」となります。お金には換算できないのではないですか。
- ・ この支援費制度への流れの中で、強調して行かなければいけないことのひとつに、社会福祉は国民の最低限の生活として守られるべきもの、社会権として人権を保障するものであることだと思います。福祉には大きな税金がいるという国民の合意が膨らんでいくことが必要だと思います。(編集委員1)

「福祉は買うものよ」という考え方に幾つかの見方をあげてみましたが、あなたのご意見を編集部までメール、FAX、お手紙で頂ければありがたいです。

地域福祉情報コーナー③

福祉フェスティバルびさい2002年

とき 2002年11月17日 午前10時から午後3時

ところ 尾西市民会館・市役所西駐車場

主催 社会福祉法人 尾西市社会福祉協議会

21世紀を迎え高齢社会への突入とともに、介護保険が施行され、さまざまな福祉サービス事業が求められる時代になりました。このような背景から、今後ますますボランティア活動の幅の広がりと、地域福祉活動の連帯が重要なものとなってきます。

「であい・ふれあい・おもいやり 2002福祉フェスティバルびさい」は、広く市民に呼びかけ、健常者も障害者も市民の一人として福祉活動に参加することにより、お互いにふれあい、理解し

あい、共に生き、ずっと住みたくなるような福祉のまちを目指し、「思いやりのある、豊かな福祉のまちづくり」を達成するために実施いたします。

当日は、福祉に関わる各活動の紹介、福祉用具・介護用品の展示紹介、手作り作品の展示、福祉体験コーナー、模擬店コーナー、また、ステージでは福祉作文朗読、感謝状表彰、各団体による演奏会、ゲストを招いての講演会、そのほか楽しめる企画を予定しています。

ご来場、お待ちしております。

講演者紹介 「ホーキング青山 (ほーきんぐあおやま)」

1973年(昭和48年)12月7日東京大田区に生まれ。

先天性多発性関節拘縮(こうしゆく)症のため、生まれたときから両手両足は使えない。ビートたけしに憧れ、1994年6月に“史上初の身体障害者のお笑い芸人”「ホーキング青山」としてデビュー。

現在、“他に比類なきジャンルの笑い”の確立を目指し、お笑いライブやイベント、講演会等で、北は北海道から、南は九州・沖縄まで、日本中、どこにでも出演中。



かしの木の会コーナー①

第3回かしの木フェスティバル開催します！



- ・とき 11月10日(日)
※小雨決行
10:00 ~ 14:00
- ・ところ 富田山ひろば
(尾西グリーンプラザ北)
かしの木の里

今年もかしの木フェスティバルの季節がやってきました。今回わたしたちは、かしの木フェスティバルがたくさんの人との出逢いの場になればと思っています。そのひとつひとつの出逢いがしっかりつながってそれぞれ支え合い、こ

の街で誰もが自分らしくあったかく生きていけたらいいなと思っています。そしてたくさんの人の輪を広げていく、そんな確かな一日がこのフェスティバルにあってほしいと願っています。このわたしたちの思いを今回は、～この街で誰もが自分らしくあったかく生きていけるように～をテーマに第3回かしの木フェスティバルを開催いたします。

さあ、みなさんわたしたちと共に今日この日をステキな一日にしてみませんか。



▲琉球エイサーの可憐な踊りと太鼓

▼かしの木の里 喫茶コーナー おいしいよ！



▲おいしい模擬店の様子！！

▼尾西第一中学校 ブラスバンド生演奏♪



かしの木の会コーナー② 夏の交友会バスツアーで なばなの里へ行ってきました!

毎年恒例になっていますが、今年はなばなの里へ行ってきました。一番心配していましたが、なばなの里に到着した時は、はなまるな天気になりました。36名とたくさん参加していただき、とても嬉しく思いました。御夫婦での参加も2組ありました。今後も沢山の御参加を期待しております。

なばなの里では、まず係りの方がベコニアガーデンの方へ案内して下さり、ベコニアの温室の中を見学しました。みごとな大輪のベコニアが、雛壇のようにならべられ、満開に咲いていました。私もですが、みな

さんびっくりされてみえました。ゆっくりと温室の中を見学し、写真撮影などして、それから、みなさん自由にお食事とショッピングを楽しんでおられました。帰りのバスの中では「来年も、もう一度来たいわー」「春のチューリップの咲く頃もいいねー」とみなさん喜んでいただけて、ホッとしました。

又、レクレーション委員会では、秋の交友会11/14(木)も予定しておりますので、多数の御参加をお待ちしております。場所が決まりましたら、ご案内いたします。

(かしの木の会 川島)

- ・ ベコニアに負けないくらい、笑顔が咲いていました!
- ・ 大変暑かったので、食事の時の地ビールの味がこれまた満点!!
- ・ バスの中からもう盛り上がっていました。とても楽しいシワが増えた1日でした。
- ・ ハンドルが取られるくらい、にぎやかな車中でした。(運転手)



榎の木作業所盆踊り大会

8月10日に榎の木作業所にて盆踊り大会が盛大に開催されました。お越し頂いた地域の皆様には大変感謝いたします。ご近所の方々には

大盛況でした!ありがとうございました!!

ご協力いただき有難うございました。当日は毎年夕立に見舞われるのですが、今年は夕立も無く順調にスタートする事が出来、良かったです。

人気ベスト5

- 1位 みたらし団子
- 2位 とうもろこし
- 3位 缶ジュース
- 4位 アイスcream
- 5位 フランクフルト

他にも、金魚すくい・風船つり・五平餅・焼きそばが好評でした!!ボランティアの方の中には、持ち場が暑くても、その場を少し離れたら、スーッと涼くなるあの瞬間が好きと言って下さる方もみえました。また、持ち場の手が余っていたら率先して隣に移り、臨機応変に対応して頂きました。また来年も皆さんで盛り上げて、がんばって行きましょう!!

今年も花火が夜空に美しく打ち上げられました。来年もまたよろしく願いいたします!!

施設コーナー かしの木の里

夏休み小学生のための特別療育行いました

子どもたちの長い夏休みが近づき、街の若者たちが何となく浮かれ始めた頃、児童相談センターから、思わぬ相談が持ちかけられました。

「かしの木の里で小学1年生のショートステイをお願いできないでしょうか」

「うちは大人の方たちの施設で、日中はみんなお仕事をされていますので、その中で小学生が過ごすことは難しいですね。ましてや、大人の方たちの中に障害をお持ちの小学生が一人入り込むのは、本人にとっても違和感のあることでしょうから、難しいですね」

はじめはこんなやりとりでしたが、詳しく聞いてみると、夏休みの間、母親が仕事をしなければならぬが、県内の児童施設はどこもいっぱい、うけてもらえるところがまったくなく、途方に暮れているということでした。はなからだめというわけにもいかず、「一度検討させてください」と、電話を切ることにしましたが、この期間はそれ以外にもたくさんさんのショートステイの申し込みを受けているし、スタッフも毎日ぎりぎりの体制で余力など全くないし、しかも小学生となると、作業室に入ってもらうわけにもいかないし…。どうしたものかとあれこれ考えていると、同様の相談がもう一件、今度は小学5年生の子どものショートステイをと…。

子どもたちにとって40日の夏休みは、楽しみがいっぱいの季節であると思っていたのが、「障害」をもった子どもたちやお母さんたちにとっては、実は大変な時期だったんですね。



▲ ボランティアさんとお絵かき

▼ お昼ごはんはおいしいかな??



それならば、そういうお母さんたちの大先輩である、かしの木のご父兄にお知恵を借りようと相談したところ、あるご家庭は一ヶ月の間仕事を休んだとか、仕事を続けるために春日井の児童施設に毎日往復したとか、仕事をしなくても大丈夫なご家庭にあっても、夏休みは、近所迷惑にならないように早朝より家を出て毎日外で過ごしたとか、特に夏休みの後半になると、お母さんたちが疲れ果てて倒れてしまったりとか、みんなぎりぎりでなんとか持ちこたえてきたようで、ずっと以前からこの問題に対しては、何にも変わっていませんでした。

他の地域で何か良い支え方を作り出してはいないかと調べてみても、愛知県では数少ない児童施設が、遠い地域からの1週間のショートステイをほんの何人か受け入れている程度で、しかもまだ幼い小学生が大変な思いをして親元を離れることを余儀なくされているのが実体でした。

全国的に見れば、北海道で母親たちのグループが自分たちで家を借りて、有償でボランティアを集め、親も交代で複数の子どもたちの面倒をみる取り組みを始めたところがあるようですが、大多数の「障害」を持つ子供たちやそのご家族は必死のやりくりで乗り切っていかなければならないのがこの夏休みだったんですね。

このような問題を知ってしまった以上かしの木のとるべき態度は、今回の相談を、「できるかできないか」ではなく、「どうすればできるか」と考えるべきだと切り替えました。里のスタッフたちも「是非やろう」と後押しをしてくれましたし、今回のこの取り組みが、かしの木にとっても良い機会にできるかもしれないと思い始めたんです。

最終的には、この話を聞きつけた4名の小学生が申し込みをされ、1週間限定で受け入れの期間を設定しました。幸いにもスタッフの中には、学生時代に子どもたちを対象にボ

ランティア活動をしていたスタッフもあり、そのスタッフを中心にたくさんのボランティアさんとチームを作り、休日返上で1週間のプログラムを立ててもらいました。工作、水遊び、お菓子づくり、音楽など1週間にしてはかなりの内容を盛り込み、子どもたちは毎日退屈しないで過ごしてくれたようです。何より、かしの木の里の人たち全体が、この子どもたちをあったかく受け止めてくれたことが、大きな収穫でした。

今回の夏休みの特別療育はやり始めてしまった以上、継続していかなければならないことでしょうし、もっと多くの希望者が集まってくるだろうことを想定すれば、どこまでかしの木の里が支えられるのだろうか、今後どういう形に展開していけばよいのだろうか、不安な要素はたくさんありますが、地域の声に対して、精一杯応えられる努力を継続していけるだけのエネルギーは持ち続けなければならないと、あらためて認識させられる機会となりました。

夏休みは、全ての子どもたちにとって、素晴らしい出逢いや、ステキな出逢いに満ちてほしいものです。「障害」があったってなくたって、この子どもたちが、学び、育っていく権利は、決して奪われてはならないことです。



↑カセット、何を聴こうかな・・・？
←お絵かき、上手でしょ～☆

福祉情報コーナー

かしの木の会 在学・在宅・実習生の集い～地域福祉の充実をめざして～

かしの木の会では、父親兄弟姉妹の会が発足し、仕事中心であった父親が、わが子のこと、地域福祉の事などを改めて学習しはじめました。

あらためて、もう一つグループが立ち上がりました。それが、在学・在宅・実習生の集いです。この集いに参加してみえる親御さんは、今すぐに、近い将来施設利用が必要であるにも関わらず、施設利用が困難であろうと思われる方々です。在学を子に持つ親御さんは将来養護学校や、市内の中学校を卒業するにも関わらず、現状では施設利用が難しい人。在宅の身の子を持つ親御さんは、養護学校を卒業したものの、施設が定員いっぱいに入所できなかった人。また檜の木作業所から一旦は就職したものの、この不況で会社がなくなったり解雇されたりして、家庭に戻った人がみえます。実習生を子に持つ親御さんは、檜の木の施設で活動しながらも、尾西市の措置を持っている人です。この集いに参加した全ての人が、正規の施設利用を期待しています。

去る6月28日に、かしの木の会の分会として、最初の集いがプレハブ『希望』で開かれました。15人の保護者が集まり、それぞれの家庭がかかえている問題点、これから期待する福祉サービスについて意見を出し合いました。やはり、卒業後の日中活動の場が欲しいの意見が多数を占めました。施設の必要性、また一般企業の受皿を広げて欲しいという意見も出ました。ピュアハウスの事も話題となり、その親御さんの頑張りには敬服しているが、やはり指導員が必要である。指導員は療育のプロであるべ

きという、施設職員には手厳しい意見もありました。そして、日中活動以外の場でも親以外の方が支えてくれる場があればいいという意見も…

いずれにしても、これから期待したいことは、施設の充実に加えて、お互いが支え合えるような地域福祉を充実していく必要があるという結論が出ました。では、それに対して今やれることは…

この在学・在宅・実習生の集いは、これからも力を合わせてこの遠大な夢を少しでも現実にしていこうとする集まりにしたいと思っています。そこで、まずはこれから何度か集まって情報を交換するとともに、長期的な視野にたった活動計画を考えることをしよう。と定期的な話し合いをこのグループで持つことにしました。また、勉強会も開きたい。福祉の専門性を持った人を講師に迎えたり、尋ねていきタイムリーな情報と課題について学習する場を設けようと考えました。

そして最後に、かしの木の会の連携のもとに、この集いのメンバーが中心となって取り組むものがあつたらよいとの意見がありました。はやく活動したい！という積極的な親御さんも現れて…収益活動も視野にいれながら、考えていきましょうとまとめ、今回の集いは幕を閉じました。

しかし、この集いは今産声をあげたばかりです。これから少しずつ成長していく段階です。かしの木の会という大きな集団に支えられながら…成長を見守るとともに、適時アドバイスという活力を与えていただけると幸いです。(かしの木の会 T)

文芸コーナー①

～音楽 おすすめCD♪～

オムニバスの「BEAUTY」:数ヶ月前に発売されたCDですが、CDのタイトル通り「美しさ」を求め集めたものです。美しい歌声に浸りたい方へお薦めのCDです。映画(洋画)に使用された曲も入っているので、その映画を見た方はその映画を思い出しながら、CDを手にして「どんな映画だろう」と興味が沸いた方は映画を観る楽しみもできるのです。

曲の年代も1985～1999と幅広く、R&B・ハードロック・パンクなどジャンルも様々で、自分の音楽の興味も広がることと思います。ぜひ聴いてみて下さい。

文芸コーナー②

～映画 アイアムサム★～

Love is all you need. 知的なハンディを持った父親、サム。コーヒーショップで働きながら、たった一人で娘のルーシーを育てている。新しい仲間にもまれて、幸福な日々を送っていたがルーシーが7歳を迎えると、サムは父親としての能力に欠けると判断され、ソーシャルワ-

カーによってルーシーを奪われてしまう。かけがえのないルーシーを失ったサムは、敏腕女性弁護士とともに、裁判に出ることを決意する。自分が、父親としての能力を十分持っていることを証明するために、そして、ルーシーとまた楽しく暮らすために――。

久しぶりに心にビタミン剤を与えられた映画だった。この映画は私に以下のことを語りかけてくれた。私たちはあまりにも親のエゴで子供を縛り付け、子供は自分が育ててやるんだという意識が強過ぎ子供の自立心の芽を摘みとってしまっているのではないか?ほんとうの愛とは子供を無垢な気持ちで見つめ話しかけ素直に抱きしめてやること ただそれだけで十分なのでは!!

親があたえられる、知性、理性、お金、環境等はこの上なく大切ではあるけど、それ以上に常時与え続けなくてはいけないものは絶対的な愛であるのにもかかわらず、恥ずかしながらこれを我が子にわかる形で継続的に与える事がなんと難しいことか。子供をこの上なく愛していても、親にはエゴもあり、子供を常に一番と思えない瞬間が何回もあり、自己嫌悪に陥りながら毎日を過ごしていくものです。子供に強く伝わる愛だけを注ぎ続けているサムから、改めてそういう愛の大切さを教えられ、反省を促されました。

ラストの場面での「あなたがルーシーの本当の父親よと、ルーシーをサムにあずける場面」そう、二人ともサムの人柄や愛には勝てなかったのである。ここでアイアムサムという言葉が心に響き、深い感動となって押し寄せ、涙がとまらなかった。ラストシーンは法廷での決着場面もなく、あっけなく終わってしまった感もあったが、私は結果を見せずに終わったことも、現実はこちらにあるとして考えさせるためにも良かったのではと思う。今から子育てを行う夫婦に是非見てもらいたい秀作である。



という感想でした。みなさんもいかがですか?

お知らせコーナー①

収益委員会より

バザー用品提供のお願い
 持ち込み先：かしの木の里
 連絡先：かしの木の会
 事務局 (0586-63-2111)
 受付期間：10月1日から
 10月31日まで

かしの木の会では、来る11月10日のかしの木フェスティバルにおいて、恒例の不用品バザーを実施します。

毎年多くの方々のご支援、ご協力をいただき、本当にありがたく感謝しております。ご家庭で眠っている家庭用品や雑貨類等ございましたら、ご提供をお願いします。収益金は、施設づくりや地域生活支援のために有効に使わせていただきます。

お願いしたい物

- 家庭用品 (タオル、シーツ、鍋、食器類、その他)
- 衣料品 (新品、又は着古しでないもの)
- 和服 (中古でも可)
- 靴、カバン
- 本、CD
- 食料品 (期限切れでないもの)

お断りさせていただく物

- × 家具類
- × 電化製品類
- × 人形、おもちゃ、楽器など
- × 着古した衣料品
(古着は廃品回収へ提供下さい)

ごきぶり団子販売します！ さをり織り ギャラリー開きます☆

きぼう第29号でお知らせした、富田野菊会様よりご寄附いただき御好評だった、ゴキブリ団子が取り替え時期となりました。そして、またのご好意で120袋ご寄附いただきました。つきましては、1袋300円でかしの木3施設で販売しております。お近くの施設でお買い求めくださいますようお願いいたします。よく効くと評判です！！是非この機会にお試しください！！

かしの木の里 きらめき工房 (手芸) では、下記の通り、初のギャラリーを開きます。お時間のある方は、一度覗いて見て下さい。

- ・ 「愛しさ いっぱい」
- ・ 場所 ギャラリーモンベール
(一宮市本町1-2-7真清田神社前)
- ・ 日時 10/8(火)~10/20(日)
- ・ Tel 0586-24-5008

我が家の宝物

3月におばあさん(97歳7ヶ月)が足を骨折するという大ケガをしましたが3ヶ月で退院でき、すっかり元気です。

長生きの秘訣を聞いたところ、よく食べ、よく眠り、人様に迷惑をかけないことだそうです。我が家の宝物は家族が健康ということです。皆ものがんばってちょうだい！

こぼればなし

かしの木の会手芸製作会
 10/3(木)里 9(水)手芸品値札付け里
 22(火)里
 24(木)物資販売案内発送 里
 11/6(水)不用品値札付け里
 9(火)かしの木フェスティバル準備
 15(月)里 26(火)里
 12/3(火)物資販売受渡日
 10(火)里 16(月)里
 時間は9:30 ~ 15:00 です。
 里=かしの木の会プレハブ「希望」

どなたでも参加できます！
お気軽にお越しくださいね。

お知らせコーナー②

行事予定 10月

- 5(土)こころの健康フェスティバル
- 8(火)～20(日)モンパール(ギャラリー)
/かしの木の里さをり織り出品
- 12(土)祖父江産業まつり
- 13(日)一宮養護学校30周年記念バザー
- 14(月)～20(日)無心に織る展(かしの木の里出品)
/名古屋・栄 マナハウス
- 19(土)かしの木バザー(花苗等)/榎の木園
- 19(土)～20(日)一宮福祉とボランティア活動展
- 26(土)～27(日)びさいまつり2002/尾西市

行事予定 11月

- 4(月)尾西クリーン作戦
- 8(金)～10(日) テキスタイル館 手織り作品展
- 10(日)第3回かしの木フェスティバル
- 17(日)2002 福祉フェスティバルびさい
/尾西市社会福祉協議会

行事予定 12月

- 8(日)ときわ作業所バザー
- 15(日)もちつき大会&人形劇鑑賞会
/かしの木の会
- 22(日)クリスマスコンサート(古川音楽教室)

中長期整備事業の有志による自己資金積立状況

(平成14年 8月31日現在)



1. 累計積立額 **5,866,840円** (目標額: 3000万円)
2. 協力者数 **143名** (目標数: 150名以上)
3. 取組み経過月数 **13ヶ月** (平成13年8月開始)

- 毎月忘れずに積立いただく「あなた」には・・・着実なご協力に感謝、感謝。
- まとめて一括積立いただく「あなた」には・・・力強いご協力に感激、感激。
- 協力者数が目標数に届いておりません
まだ検討中の「あなた」には・・・早速のご協力をお待ちしています。

☆かしの木フェスティバルのボランティアさんを大募集しています。お手伝いいただける方、興味のある方、是非お気軽にご連絡ください。問い合わせは下記の担当まで、よろしくお願いします！！
☆随時 作業・行事ボランティアさん募集しております！！詳しくは、かしの木の里 武田まで。

尚、かしの木の会/手芸品 かしの木の里/自主製品を、かしの木の里・施設内にて販売しております。お立寄りの際はどうぞご覧下さい。

☆広報誌「きぼう」の購読会員を募集しています。詳しくは、かしの木の里内 かしの木の会までご連絡下さい。

地域の人々に支えられ、地域の人々と共に

かしの木の里

- かしの木の会 事務局 〒494-0018 愛知県尾西市富田字砂原 2147番地 Tel 0586-63-2111
かしの木の里内 Fax 0586-61-1200
- 榎の木福祉会☆榎の木作業所 尾西市富田字漆畑1-6番地 Tel/Fax 0586-61-6055/61-6514
- ☆榎の木園 尾西市富田字若宮1 7番地 Tel/Fax 0586-62-8202/62-8253
- ☆かしの木の里 尾西市富田字砂原2147番地 Tel/Fax 0586-63-2111/61-1200